

季節風

北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

旬（しゅん）

情報広報部長 中川 俊男

北海道は一年でもっともさわやかな季節を迎えた。札幌ではライラックが咲き、街中の草木は一斉に緑に変身した。市民は長い冬の後の待ちに待った季節に癒されている。大通り公園では今年も「とうきびワゴン」によるトムモロコシの販売が始まった。7月までは冷凍物だが、これがけっこういける。すぐに「YOSAKOIソーラン祭り」だ。7月末からはピアガーデンが始まる。昨年の冷夏による不振を挽回したいところであろう。

食材・食品には「旬」、「賞味期限」、「消費期限」という表現があるが、冷凍技術の進歩で、この区別がうすれてきた。そうは言っても、できれば美味しくて安価な旬の時期に食したい。今はグリーンアスパラが旬である。道外からのお客様には是非お勧めしたい。ただし、アイスクリームには旬はなく、年中美味しい。また、北海道の三大蟹（毛、たらば、花咲）が人気を集めるが、なんと言っても「毛がに」が最高だろう。

★ ★ ★

こんなのだかな季節が来ているのに、「えっ」と驚くことが続いている。国民年金の未加入問題で菅直人民主党代表が辞任したかと思えば、後任に

固まっていた小沢一郎代表代行が、未加入歴があったとして突然辞退した。「総理と刺し違い」とか「絶好の口実」など様々な見方があるが、最初は驚き、すぐに呆れた。小泉総理は任意加入時代のことを問題にするのはいかがなものかと、意に介さない。政治家というのは本当に食えない連中だと再認識した。

語弊を恐れず言うと、人間、いや、政治家には旬、賞味期限があるのかなと思ったりもする。菅直人氏の旬は薬害エイズ問題を暴いた厚生大臣時代、小沢一郎氏は総裁候補を面接した自民党幹事長時代だったかも知れない。もう少し待てば総理確定と言われた加藤紘一氏は、「加藤の乱」を起こして不遇の時代を過ごした。彼は自分の旬の時期を知っていたのではないだろうか。有能な政治家は、たとえ旬が過ぎても賞味期限内であればそれなりの仕事はできるだろうが、能力や気力の衰えの兆しは本人が一番分かるものだ。自分が最も能力の発揮できそうな時期に足跡を残したいという思いは切実だろう。

小泉総理は今が旬なのか、賞味期限内なのかはわからないが、小泉政権を影で支えるキャリア官僚たちは、旬の時代の真っ盛りだろう。

★ ★ ★

では、われわれ医療人の旬はどうだろう。医師が自分の旬を見極めるのは難しい。だが間違いなく、地域医療に情熱を燃やし、たゆまぬ努力を続けている間は幾つになっても旬のはずだ。相変わらずマスメディアからの医療に対するバッシングが続き、ともすれば萎縮医療になりがちな今日、医師としての旬や賞味期限をできる限り延ばす努力を続けていきたいものである。